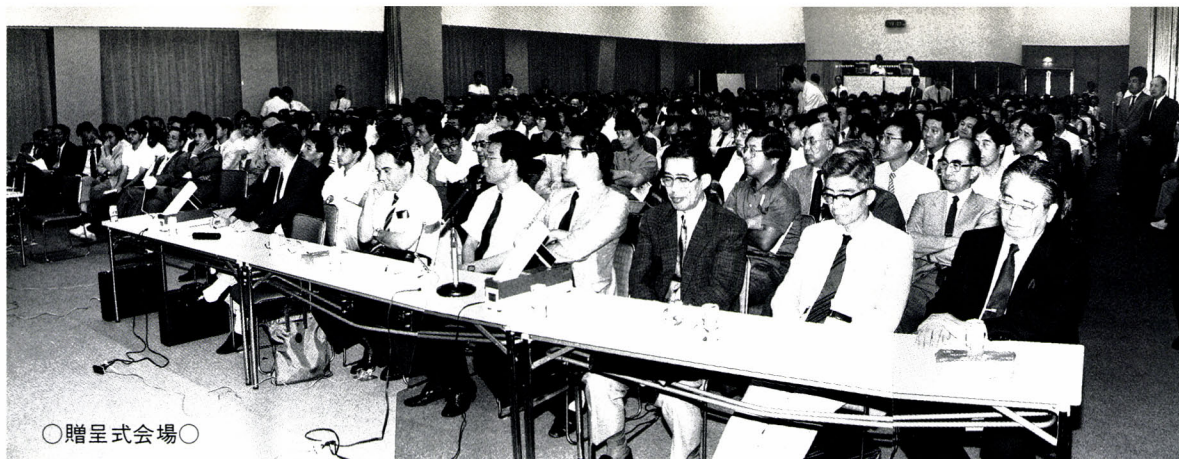




第14回村上記念「胃と腸」賞贈呈式

受賞は星原芳雄氏ら

去る7月14日、エーザイ本社5階ホールで開催された早期胃癌研究会7月例会において第14回村上記念「胃と腸」賞贈呈式が行われた。

本年の受賞論文は「電子スコープによる早期胃癌の内視鏡所見と切除標本の対比」(「胃と腸」23巻1号掲載)で、論文執筆者は星原芳雄氏(虎の門病院消化器科)ら6名。同氏らの研究は「電子スコープを用いて、早期胃癌の表面微細構造を観察し、それらを切除固定標本の実体顕微鏡所見および病理組織所見と対比・検討したものであり、この方法は早期胃癌の鑑別診断、癌の浸潤範囲の診断に有用というだけでなく、癌の組織型の推定(分化型腺癌、未分化型腺癌の形態学的特徴など)も可能である」ことを明らかにしたものの。

贈呈式は「早期胃癌研究会」第2例目の後に出席した500余名の聴衆が見守る中、早期胃癌研究会代表の白壁彦夫氏から星原氏に賞状、賞杯が手渡され、医学書院の金原優社長より賞金の贈呈が行われた。星原氏は、「この論文の直接の指導者であり、虎の門病院に電子スコープを導入した福地創太郎先生に謝意を表したい。この研究の“対比”の仕事によりある程度満足のいく結果が得られたことを「胃と腸」編集委員会の諸先生から認められたことは望外の喜びであり、今後も消化管診断・治療の更なる進歩のために力を尽くしたい」と研究者・第一線臨床家らしい“冷静な情熱”のこもった受賞者としての挨拶を述べられた。

なお、本「胃と腸」賞対象論文は「論文のオリジナリティ、臨床への貢献度、優れた論文の内容・形式などを具備したものでなければならず、極めて水準の高い論文にのみ与えられる賞」(選考経過および祝辞を述べた望月福治氏のことば)であり、「私もまだもらっていないので、今後頑張って優秀な論文を書くよう努力したい」と白壁代表・望月編集委員が交々語ったように、各年の「胃と腸」掲載の全論文の中から「胃と腸」編集委員会により厳選されるものである。



○受賞の星原芳雄氏○